春の沢集中

身延・波木井川支流／相又川

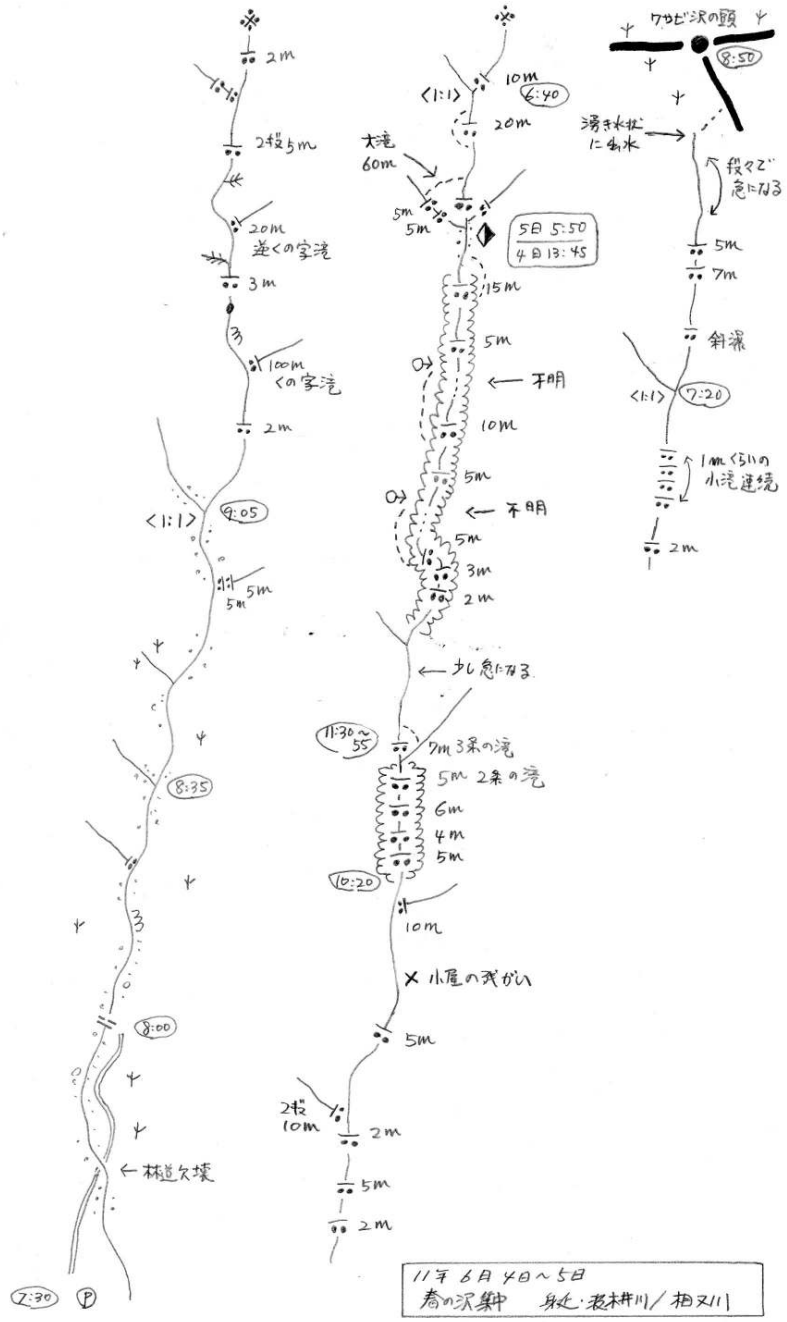
メンバー:三井(L、)、後藤、塚原
遡行日:11年6月4日-5日

富士川に沿って52号線を北上。川は一昨日の大雨の影響が残ったままで、茶色に濁り、水嵩も多いままだ。
しかし、今回の遡行の沢は支流でもあるし、問題はなかろう。
待ち合わせ場所の道の駅「富沢」に行くと他パーティーも出発の準備を始めていた。軽い雑談の後、こちらもメンバーを乗せ出発。
52 号線の「相又峡パーク」のところから相又川に沿って林道を進み、林道が荒れる手前の空き地に車をとめる。
ザックを肩に林道を歩きだす。30 分ほどでその林道は行き止まりとなり、沢に降りる。
堰堤があり、土砂が堆積した広々した河原となっている。1 時間程淡々と歩いて行くと二俣。
左俣のほうが少し沢幅は広いがガレていて、右俣は本来の沢の感じ。右に入り遡っていくが漸くそれらしい雰囲気で小滝なども落ちていて沢登りしている気になってくる。
左岸に朽ち果てた小屋の残骸を見ると顕著なゴルジュとなる。「さて、何が出るか。」期待感と緊張感が交差する。
5～6mの滝が数本、それらを弱点を突いて越えて行く。これがRPGをやっているようで楽しい。
これだからいつまでも沢登りがやめられないんだなぁ、と思う。
3 条の滝を左岸から越えると沢は段状になって傾斜も少し強まる。その先にまた狭隘なゴルジュが現れるが何か手こずりそうな嫌な雰囲気を漂わせている。
小滝を越え、5mの滝は手が出ず、右岸を巻く。懸垂で沢床に降り、目の前の 5mの滝を登ると今度は 10mの見るからに険悪な滝。右岸からスズタケを漕いで巻きにかかる。一旦落ち口に寄るが直ぐその先にも大きな滝があり降りられず、そのまま更に巻きあがる。ゴルジュの様子がわからないまま巻いて行き、何とか下降出来そうな地点にでたところで懸垂で沢床に降り、ヤレヤレだ。
5mの滝を越えるとまた 15mくらいだろうか登れない滝。左岸から巻きにかかるが、その先にやけに大きそうな滝が木の間越しに見える。とても 2、30mばかりではなさそう。あれが「登山大系」に載っていた 60mの大滝か。
滝の手前の河原がテン場になりそうで、河原に降りて様子をみるとマズマズの感じ。今日はいいテン場があれば、時間が早めだろうと幕を張る事にしていたので、ザックをおろす。
整地しようとすると、いましたね「ヤツ」が。
元々「ヤツ」が生息している沢なのに、ここまで姿をみせないので、変だなぁと思っていたのだが…。
早速キンカンで掃討作戦。余り酷い状態では無い様で、数匹始末すると見当たらなくなる。
ツエルトを張り、焚き火の支度。枯れ枝が近くに散乱しているので、薪集めの苦労はない。焚き火が熾きればあとは

飲みながらの歓談となる。
夕食担当の塚原さんが、野菜や肉など大量に用意してくれたので、このメンバーでは喰いきれない。僕はいつもは一本の酒缶で十分なのだが、今日は貰い酒まで。
日が落ち、星の瞬きをみたところで早めにツエルトにもぐる。後藤さんが「刺身で寝ますか。」と言う。僕は意味が解らず「エッ？」
頭を互い違いにして寝る事を言うそうだが、僕は初耳の言葉だ。僕が前にいた「会」では、頭を同じ方向で寝るのは「メザシ」と言ったけれど、互い違いに寝る事は何て言ってたっけなぁ。

［二日目］
朝っぱらから大滝の巻きだが、手こずりそうな予感。
僕はこの大滝は、以前来た時には何故か目にしていない。
「わらじの仲間」がこの沢を遡行した時の記録を会報で読んだ事があるが、やはり滝に出合わず、「大滝は埋まってしまったらしい」と書いてあったが、僕は水流が多段になって落ちる急登を大滝と表示しているのでは…、と思っていた（中アの中御所谷の 100m大滝がそうだ。）のだが、やはり大滝は存在したんだなぁ。
滝の手前、右岸側に枝沢があり、そこから 5mばかりの滝を 2 本越えてから草付きに取り付いて巻くとあっさりと落ち口にでた。手こずると思っていたので拍子抜けの感。
20mの滝を右岸から越えると二俣。どちらにするか迷ったが、ここは右。10mの滝を右岸から巻く。まだ滝は途切れず現れ、1mばかりの小滝の連続となって高度を上げている。
沢は小さくなっていよいよ最後の二俣。左は主稜線に直接あがるが、稜線直下の等高線が詰まっている。右は枝尾根にでてから主稜線にでるが、等高線は普通の間隔だ。となるとここは右が無難か。
しぶとく滝が現れるがさすがに源頭、悩むような滝はない。小沢をつめていくと、まだ涸れるような水量ではないのに突然、水流が消える。
目の前の草付きの斜面にから湧き出すように流れ出ているのだ。ちょっと珍しい光景。
ここで沢靴をスニーカーに履き替え、草付きを登る。大した藪はなく、獣道を拾って登っていくと、あっさりと枝尾根に上がり、うっすらした踏み跡を辿れば主稜線の「ワサビ沢の頭」に飛び出して終了。お互いに握手。
と、ここで後藤さんから悲鳴。ヤツから最後の被弾で手から血が。ほんと、しつこいヤツらだ。
交信をすると他パーティーも皆、順調のよう。交信を終えたところで稜線の登山道を辿る。ピンクのミツバツツジや白いシロヤシオの花が綺麗に咲いている。そんな花を愛でながら歩けば「集中」地の安倍峠まではもう直だ。他のパーティーはもう来ているだろうか。

（記／三井）



11年 6月 4日〜5日
春の沢集中　鈴北・表林川／相又川